平成３０年度

地域防災の活動報告

平成３１年３月

さぽーとたい

NPO法人
ひょうご地域防災サポート隊

ご あ い さ つ

皆さまには益々ご健勝にてご活躍のこととお慶び申し上げます。そして、私たちの防災・減災活動に、ご支援、ご協力を頂いておりますことに感謝申し上げます。

この度、平成30年度防災活動報告をまとめましたのでお届けいたします。

私たち「ひょうご地域防災サポート隊」は、兵庫県を退職した技術職員が集い、平成18年1月にNPO法人の認証を受けました。

私たちにとっては、県職員時代に経験した「阪神・淡路大震災」が活動の原点になっています。それぞれの立場で、「安全で快適なまちづくり、地域づくり」に取り組んできていたわけですが、震災は私たちに技術の限界、想定をはるかに超える自然の力の大きさをつきつけました。また、「公助」の限界も目の当たりにする一方、「自助」「共助」が命を守り、復興に大きな役割を果たすことを学びました。

このような経験を原点として「守れいのちを！」を合言葉に、各地域に出向き、兵庫県が作成したCGハザードマップを活用するなど、それぞれの地域が内包する災害リスクを確認し、地域の方々と共に防災力向上や減災対策について考えてきました。

本年度は新会員1名を迎え、22名で活動を行いました。

また、これまでの当法人の活動を評価していただき、5月28日に「兵庫ニューメディア推進協議会」から「兵庫県地域情報化功労表彰」を頂くとともに、11月20日には「一般財団法人地域政策研究会」から「貝原俊民美しい兵庫づくり賞」を授与されました。これらの表彰は、伊藤顧問を始めとする当法人設立以来活動を支えてこられた先輩方の賜であり、現在活動を進めている会員全員にとっての栄誉であります。これら栄誉を励みとして、今後より一層地域の安全が守られるよう会員全員が取り組む決意を新たにしているところです。

今後とも、当法人の活動につきまして、各位のご指導、ご支援を賜りますようお願い申し上げます。

今年度を振り返ってみますと、酷暑とも言うべき夏の暑さに加え、多くの災害に見舞われた年でした。

6月18日7時58分に大阪府北部を震源とするとM6.1、最大震度6弱の地震が発生し、登校中の小学4年生の女児が学校の倒壊ブロック塀の下敷きになり亡くなるなど4人の死者が出ています。（平成30年7月5日18時現在 内閣府）兵庫県でも重軽傷者42名、ピーク時停電約1,592戸などの被害が出ました。また、緊急停止した電車内に通勤客が長時間閉じ込められたり、多数の通勤、帰宅困難者を発生させるなど課題が露呈しました。近い将来の発生が懸念されている南海トラフ地震時の教訓とするべきとの識者の意見が表明されました。

6 月 28 日以降 7 月 8 日までに、台風 7 号や梅雨前線の影響によって西日本を中心に全国的に広い範囲で記録的な大雨となり、全国各地で甚大な被害が出ました。四国地方では総降水量が 1,800mm を東海地方では 1,200mm を超えるところがありました。(気象庁資料)　平成 31 年 1 月 9 日 16 時現在での全国の死者・行方不明者は 245 人、全壊家屋も 6,767 棟に上っています。広島県の死者・行方不明者は 120 人、全壊家屋は 1,150 棟、岡山県で 69 人、4,828 棟、愛媛県で 31 人、625 棟となっています。(消防庁資料)　兵庫県でも死者 2 人、全壊家屋 16 棟の被害が出ています。

広島県では、広島市や呉市等で土砂災害が多く見られました。また、交通網が遮断され呉市が孤立状態に陥りました。

岡山県では、一級河川高梁川に合流する小田川とその支流高馬川の堤防が決壊し、浸水被害を受けた倉敷市真備町が大きく報道されました。本川からのバックウォーターが影響したものと言われました。また、この浸水被害はハザードマップで示されていた浸水状況とほぼ一致しており、ハザードマップを活用した避難や減災の取組の重要性を再認識させられました。

愛媛県では、一級河川肱川の洪水により大洲市と西予市が被災しました。これら被災市上流には、それぞれ鹿野川ダムと野村ダムがありましたが、ダムの洪水調節機能を超える降雨の為、異常洪水時防災操作に移行した後、下流部で破堤し、被害が発生しました。その後、国土交通省では、「異常豪雨の頻発化に備えたダムの洪水調節機能に関する検討会」を立ち上げ、同会からの提言を得ています。

兵庫県でも、芦屋市奥池で累加雨量 719mm を記録するなど、阪神大水害の総雨量 461.8mm を超える豪雨でした。しかし、その被害は当時に比して軽微であったことは、その間の先人の弛まぬ防災整備のお蔭とともに、ピークの降雨が後半にきた阪神大水害とは異なる降雨パターンにも救われたと思われます。今回被災を免れたことをもって、防災・減災の取組を緩めることのないよう願うものです。なお、サポート隊の活動の場となってきた宍粟市が大きな被害を受けたため、当サポート隊として義援金を拠出させて頂きました。

7 月 29 日には台風 12 号が三重県伊勢市に、8 月 23 日には台風 20 号が徳島県阿南市に上陸、その後姫路市に再上陸しました。

そして 9 月 4 日には台風 21 号が徳島県に上陸後、近畿地方を縦断していきました。強風と高潮・高波の被害が顕著な台風でした。電柱倒壊による広範囲の停電や自動車の横転などの被害が出ました。また、タンカーの走錨により、関西国際空港連絡橋に衝突し橋桁に大きな損傷を与えました。兵庫県でも、土運船が阪神高速道路湾岸線側道の県道芦屋鳴尾浜線の橋桁、橋脚に損傷を与え、西行が通行止めの片側規制が行われています。また、神戸港六甲アイランドのコンテナが流出、芦屋市の海岸に漂着するなどの被害もでました。関西国際空港の滑走路やターミナルビルが浸水した他、南芦屋浜でも浸水被害が発生しました。兵庫県 CG ハザードマップでは、浸水が想定されていませんでしたが、ハザードマップ作成時の護岸実測値の過誤並びにその後の護岸の沈下が原因とされました。当サポート隊の活動には、ハザードマップの活用が不可欠となっていますので、改めてその活用には前提条件等に留意しなければと自戒して

いるところです。
　台風21号の襲来直後ともいうべき9月6日午前3時7分に、M6.7、最大震度7の「平成30年北海道胆振東部地震」が発生、死者42人、全壊家屋462棟の被害が出ました。震度7の厚真町では、大規模かつ多くの土砂崩れが発生しました。また、札幌市清田区では液状化により家屋、道路等に被害を及ぼしました。原因として「谷埋め盛り土」地であることが挙げられています。

　このように災害の頻発した平成30年度の活動状況は、以下の通りです。
　兵庫県阪神南県民センターの依頼を受けて、6月3日、7月1～29日及び8月11～29日の土、日、祝日に「尼ロック防災展示室」特別公開支援業務に携わりました。ただ、気象警報が出ていて、来訪者の安全にも関わる日の公開については、検討が必要との思いを強くしたところです。
　また、伊丹市、宍粟市、南あわじ市等で地震や津波、河川の氾濫や土砂災害等に対する減災対策や命を守る行動について、参加者の方々と共に考えました。当サポート隊としては初めての避難所運営訓練であるHUGを南あわじ市避難所担当職員の方々と共に取組みました。

　今年度の降雨災害や地震災害の頻発並びに教訓を踏まえ、最新の防災・減災対策の動向に関心を払いながら、研鑽を積み、地域の防災力向上に引き続き貢献して行きたいと考えています。
　引き続き、関係各位のご理解、ご助力をお願い申し上げます。

平成31年3月吉日
ひょうご地域防災サポート隊
理事長　井上俊廣

目次

Ⅰ．防災啓発活動（出前講座）　１

Ⅱ．防災啓発活動（防災訓練等支援）　３

Ⅲ．防災啓発活動（防災マップづくり等支援）　７

Ⅳ．防災啓発活動（防災展示室特別公開支援）　１２

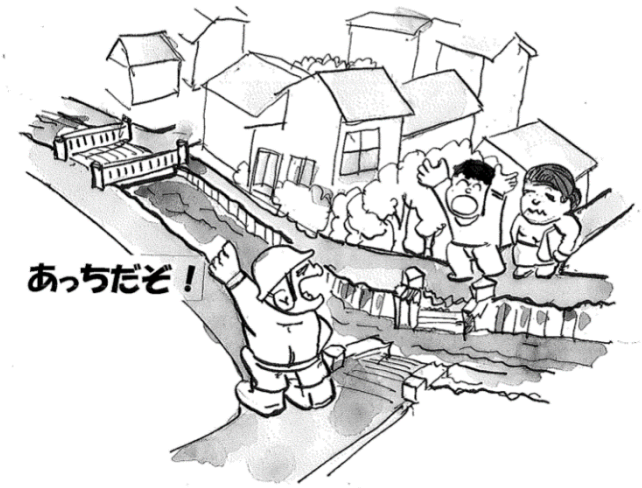
Ⅴ．その他の活動　１５

Ⅰ．防災啓発活動（出前講座）

私たちは、防災知識の普及啓発活動として、自治体等の依頼を受け、地域住民や自治体職員等を対象に１地区で、出前講座を実施しました。

実施地区一覧表

NO	開催日	活動内容	開催場所	担当者
1	H30.11.04	防災（津波）講演会	沼島総合センター	林　　健児 谷川　俊男



１・南あわじ市「防災（津波）講演会」

１．依　頼　者　：　南あわじ市沼島出張所

２．開　催　日　：　平成３０年１１月４日（日）

３．開 催 場 所 ：　南あわじ市沼島総合センター

４．講演等の相手：
南あわじ市沼島地区住民
参加人数：７０名

５．講　演　者　：　林健児　（補助）谷川俊男

６．講 演 内 容 ：

南あわじ市主催の総合防災訓練終了後に、「津波について考えましょう」のタイトルで講演を実施した。

（１）東日本大震災時の沼島での津波記録と避難状況
（２）地震・津波の仕組みと南海トラフ地震の説明
（３）地震・津波発生時の避難行動（情報・避難）
（４）沼島漁港の津波対策
（５）まとめ

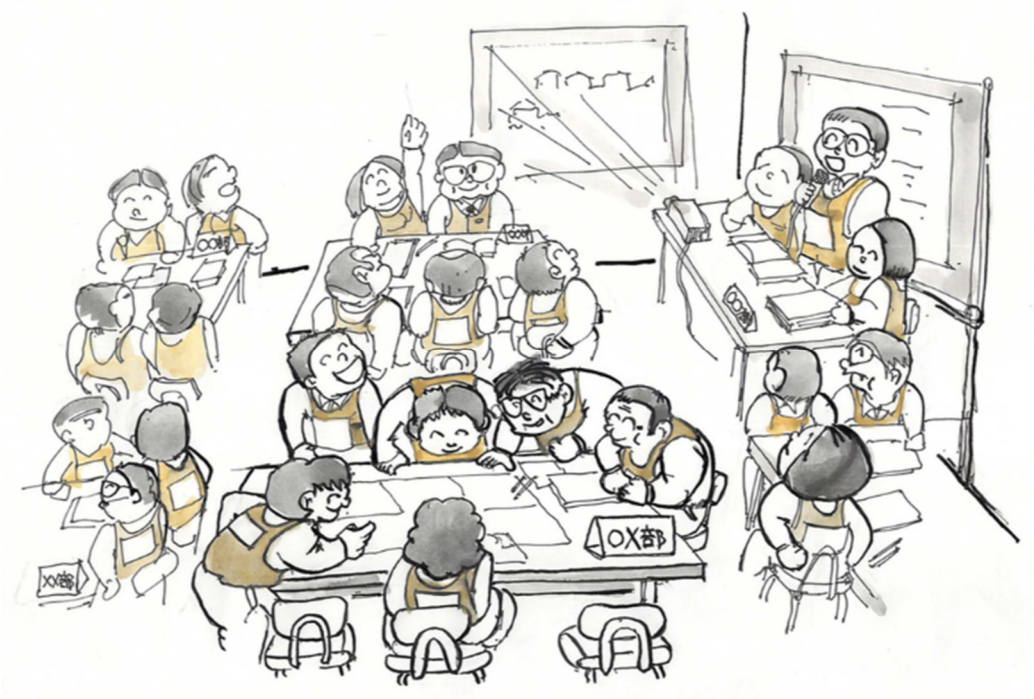
Ⅱ．防災啓発活動（防災訓練等支援）

私たちは、地域の自治体等の要請にもとづき、水防活動の技術支援や防災啓発活動を通じて図上防災訓練への参加、避難所ＨＵＧの実施など、３地区において支援活動を行いました。

※避難所ＨＵＧとは、避難所運営をみんなで考えるためのもの。Ｈ（hinanzyo 避難所）Ｕ（unei 運営）Ｇ（game ゲーム）、HUG（抱きしめる、避難者をやさしく受け入れる）

実施地区一覧表

NO	開催日	支援内容	支援場所	担当者
1	H30.06.06	加東土木事務所 水防工法技術研修会	一級河川千鳥川 左岸河川敷（加東市）	谷田　登志晴 廣　田　　誠
2	H31.01.18	南あわじ市 避難所担当職員研修会	南あわじ市役所 別館多目的ホール	谷川　俊男 井上　俊廣 谷田　登志晴 寺田　良幸 元井　賢一 森脇　康仁
3	H31.01.21	伊丹市防災図上訓練	伊丹市防災センター	釜谷　正博 井上　俊廣 寺田　良幸 西垣　嘉夫 林　　健児



１・平成３０年度水防工法技術研修会

１．依　頼　者　：　北播磨県民局加東土木事務所

２．開　催　日　：　平成３０年６月６日（水）

３．支 援 場 所　：　一級河川千鳥川　左岸河川敷
（加東市）

４．講演等の相手：

加東土木事務所・管内市町職員（２９名）
（一社）北播磨建設業協会（４６名）
参加者：７５名

５．講　演　者　：　谷田登志晴　（補助）廣田誠

６．講 演 内 容 ：

演習：
水防工法（縄結び、土のう作成、シート張り工法、月の輪工法等）の実地指導

神戸新聞 2018年06月07日 木曜日 面名 北播W １３ 28ページ

加東で水防工法研修

水害に備え県土木事務所など

近畿地方が梅雨入りした6日、県加東土木事務所などは、加東市社の千鳥川の河川敷で水防工法技術研修会を開いた。北播磨6市町の職員や建設会社社員ら約100人が参加し、土のうの作り方や堤防を水流から守るシート張り工法などを学んだ。

北播磨では、2011年に台風12号による被害があったほか、13～15年にかけて台風などによる被害が相次いだ。同研修会は12年に始まり、7回目になる。

この日は、県の元土木関係職員でつくるNPO法人ひょうご地域防災サポート隊（太子町）の谷田登志晴さんと広田誠さんが指導。参加者は縄の結び方や土のう作りを体験した後、シート張り工法や、川が増水した際に堤防からの土砂流出を防ぐ「月の輪工法」に取り組んだ。

三木市に今春入庁した中井啓晶さん(24)は「災害時には研修の経験を生かしたい」と話していた。（藤田　彰）

河川敷ののり面でシート張り工法を体験する参加者＝加東市社

(C)神戸新聞社 無断転載 複製および頒布は禁止します。

２・南あわじ市避難所担当職員研修会

１．依　頼　者　：　南あわじ市危機管理課

２．開　催　日　：　平成３１年１月１８日（金）

３．支 援 場 所　：　南あわじ市役所第２別館３F
多目的ホール

４．講演等の相手：

南あわじ市役所避難所担当職員等　３６名

５．講　演　者　：　谷川俊男

（ファシリテーター）井上俊廣・谷田登志晴・寺田良幸・元井賢一・森脇康仁

６．講 演 内 容 ：

避難所運営ゲーム（HUG）に係る研修
⑴ 研修概要（HUG の概要、三原平野の特性と災害）
⑵ アイスブレイキング
⑶ 設定条件（対象災害）と共通認識
⑷ 練習と避難所運営方針
⑸ ゲーム
⑹ まとめと意見交換
⑺ 講評

３・平成３０年度伊丹市防災図上訓練

１．依　頼　者　：　伊丹市

２．開　催　日　：　平成３１年１月２１日（月）

３．支 援 場 所　：　伊丹市防災センター

４．講演等の相手：

事務局(９名)　総括本部(３２名)
対策部(４５名)　　合計：８６名

５．総　括　者　：　釜谷正博

（ファシリテーター）井上俊廣・寺田良幸・西垣嘉夫・林健児

６．講 演 内 容　：

1. 目的
南海トラフ地震を想定し、地震発生直後１時間までと、１日後における災害対策本部の活動訓練を行い、担当職員に災害対策本部運営要領を習得させる
2. 訓練の概要
オリエンテーション
各対策部打合せ
訓練
検討会・まとめ

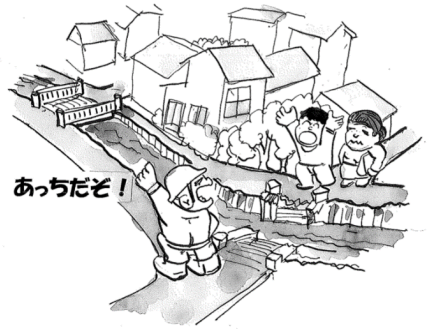
Ⅲ．防災啓発活動（防災マップづくり等支援）

自主防災組織の活性化を図り、地域の防災組織の向上を図る取り組みの一つとして、地域の人たちによる手作りの「地域防災マップづくり」や「DIG 訓練」、「ワークショップ」等を自治体や自主防災組織等、また、小学校の児童や教職員を対象に３地区において、支援活動を実施しました。

※　DIG 訓練とは、災害（Disaster）の D、想像力（Imagination）の I、ゲーム（Game）の G の頭文字を取って名付けられた、誰でも行うことができ、誰でも参加できる簡易な災害図上訓練です。

実施地区一覧表

NO	開催日	事業内容	開催場所	担当
1	H30.09.02	宍粟市山崎町城下・戸原地区 防災マップの作り方講習会	宍粟防災センター	榊原　敏夫 阿山　耕三 窪田　彰 寺田　良幸 林　健児
2	H30.10.17	南あわじ市立榎列小学校 職員研修（DIG）	榎列小学校	谷川　俊男 寺田　良幸
3	H31.01.16	南あわじ市立榎列小学校 DIG 学習	榎列小学校	谷川　俊男 寺田　良幸 林　健児 廣田　誠 森脇　康仁
4	H31.01.20	宍粟市山崎町城下地区 防災マップの作り方講習会	宍粟市役所 ４階会議室	谷田　登志晴 榊原　敏夫 中村　誠 廣田　誠 元井　賢一



１・宍粟市山崎町城下・戸原地区防災マップの作り方講習会

１．依　頼　者　：　宍粟市

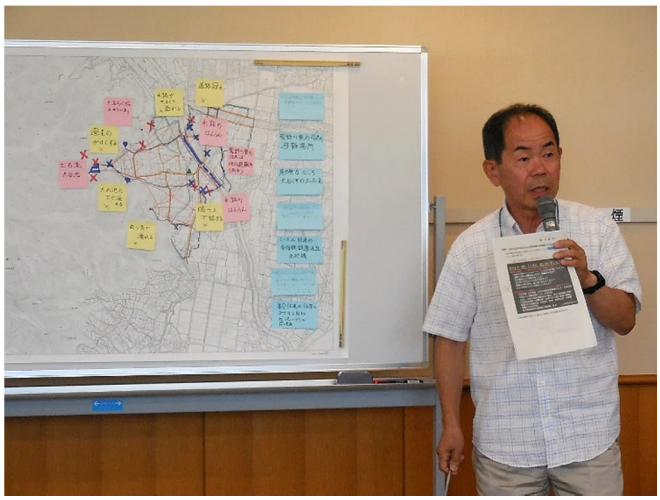
２．開　催　日　：　平成３０年９月２日（日）

３．開 催 場 所 ：　宍粟防災センター

４．講演等の相手：
宍粟市旧山崎町の自治会 役員：35 名
・城下地区：下広瀬、船元、中井、鶴木、段、金谷
・戸原地区：川戸、宇原、下宇原
宍粟市職員：５名　　参加者：４０名

５．講　演　者　：　榊原敏夫
（ファシリテーター）阿山耕三・窪田彰・寺田良幸・林健児

６．講 演 内 容 ：
防災マップの作り方
（１）豪雨災害の危険と防災マップづくりの必要性
（２）マップづくり作業
（３）各自治会発表
（４）まとめ



２・南あわじ市立榎列小学校職員研修（DIG）

1. 依　頼　者　：　南あわじ市立榎列小学校
2. 開　催　日　：　平成３０年１０月１７日（水）
3. 開 催 場 所　：　榎列小学校
4. 講演等の相手：
   榎列小学校教職員　２３名
5. 講　演　者　：　谷川俊男
   （ファシリテーター）寺田良幸
6. 講 演 内 容　：
   1. ＤＩＧとは何かをおさらい
   2. 作業概要説明
   3. 対象災害（南海トラフ巨大地震）の概要説明

３・南あわじ市立榎列小学校 DIG 学習

1. 依　頼　者　：　南あわじ市

2. 開 催 日 時　：　平成３１年１月１６日（水）

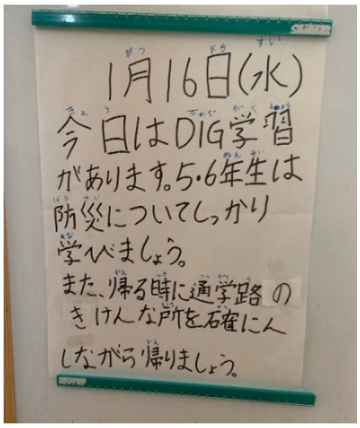
3. 開 催 場 所　：　榎列小学校

4. 講演等の相手：

　榎列小学校５，６年生、父兄等
　DIG　約１１０名、全体会　約２７０名

5. 講　演　者　：　谷川俊男
　（ファシリテーター）寺田良幸・林健児・廣田誠・森脇康仁

6. 講 演 内 容　：
　1.　全体会
　2.　講和「DIG 学習について」山崎教諭
　3.　DIG 学習　５，６年生
　　想定災害　南海トラフ巨大地震
　4.　講評



４・宍粟市山崎町城下地区防災マップの作り方講習会

１. 依　頼　者　：　宍粟市

２. 開　催　日　：　平成３１年１月２０日(日)

３. 開 催 場 所　：　宍粟市役所４階会議室

４. 講演等の相手：

旧山崎町城下地区の９地区の自治会役員（２６名）

参加自治会：御名、千本屋、野、上比地、下比地、今宿、東鹿沢、上ノ上、梯自治会

宍粟市役所職員　６名　　合計　３２名

５. 講　演　者　：　谷田登志晴

（ファシリテーター）榊原敏夫・中村誠・廣田誠・元井賢一

６. 講 演 内 容 ：

防災マップの作り方

（１）豪雨災害の危険と防災マップづくりの必要性

（２）マップづくり作業

（３）各自治会発表

（４）まとめ

Ⅳ．防災啓発活動（尼ロック防災展示室特別公開支援）

兵庫県阪神南県民センター尼崎港管理事務所からの要請により、尼崎閘門（通称“尼ロック“）に設置されている防災展示室が、７月、８月の土曜日、日曜日、祝日に特別公開されたのに際し、その支援業務を行い、地域の子供たちなどの住民への高潮・津波などの災害に対する啓発への支援を行いました。

また、特別公開に先立ち６月３日に尼ロック及び尼崎の森中央緑地において行われた防災フェスティバルの支援を行いました。

１．依　頼　者　：　阪神南県民センター
　　尼崎港管理事務所

２．開 催 日 時　：　防災フェスティバル：６月３日（日）
　　特別公開：７月　１～29日
　　８月１１～26日
　　（期間中の土日祝日）

３．開 催 場 所　：　尼ロック防災展示室
　　尼崎の森中央緑地（防災フェスティバル）

４．参　加　者　：
　防災フェスティバル：１８３名
　特別公開　　：１７５名

５．業務従事者：　総括：釜谷正博
　阿山耕三・井上俊廣・梶谷義昭・窪田彰・榊原敏夫・阪出裕昭・髙﨑伸彦・髙橋伸明・谷川俊男
　谷田登志晴・常友永市・寺田良幸・中村誠・西垣嘉夫・林健児・廣田誠・村上和幸・元井賢一
　森脇康仁

６．活 動 内 容　：
　尼ロック防災展示室の特別公開支援業務及び防災フェスティバル支援

■防災フェスティバル（６月３日）のチラシ

■特別公開チラシ

■防災フェスティバルの様子

尼崎中央緑地

尼ロック防災展示室

■特別公開の様子

2018/7/17　尼ロック：防災力を学ぶ　仕組み・津波対策、模型で　展示室、予約なしで見学可　来月までの土日祝日　／兵庫 - 毎日新聞

毎日新聞

尼ロック
防災力を学ぶ　仕組み・津波対策、模型で　展示室、予約なしで見学可　来月までの土日祝日　／兵庫

毎日新聞 2018年7月16日　地方版

特別公開されている尼崎閘門の防災展示室。ボランティアガイドが「どんな街に暮らしているかを知って」と来場を呼びかけている＝兵庫県尼崎市西海岸町で、高尾具成撮影

津波や高潮、台風などから街を守る「尼崎閘門（こうもん）」（愛称・尼ロック）＝尼崎市西海岸町＝の防災展示室が、７、８月の毎週土・日曜と祝日、特別公開されている。通常は団体客を対象に予約を受け付けているが、南海トラフ地震による津波への啓発や豪雨災害に対する防災学習などに役立ててもらおうと、期間限定で予約なしで見学できるようにした。【高尾具成】

１９５５年から運用を始めた「尼ロック」は、防潮堤の機能を備えながら、経済活動を支える水路機能も併せ持つ。防災展示室は施設の監視や運河の水位調整を行う集中コントロールセンターの１階にあり、太平洋とカリブ海を結ぶパナマ運河と同じように、水位の調整で船を通す閘門の仕組みや津波対策について模型などで学べる。防潮堤内に雨水がたまらないように海側へと排出するポンプ場の役割も解説。各地の水害と対策の歴史も紹介している。

尼崎市は地下水の利用などで地盤沈下が進み、市域の約３分の１は満潮時の海面より低くなる「ゼロメートル地帯」といわれる。海や川に防潮堤を設け、複数のポンプ場を稼働させて高潮や津波、内水氾濫を防いできた。

見学者への案内を担当するＮＰＯ法人「ひょうご地域防災サポート隊」の寺田良幸さん（７２）と常友永市さん（７１）は「尼崎を浸水から守る重要な施設で防災力を培ってほしい。普段、生活している街がどのような場所なのかを確認し、自らの命を守る方法も考える機会につなげてもらえたら」と来場を呼びかけている。

午前１０時～午後４時、入場無料。問い合わせは尼崎港管理事務所（０６・６４０９・１３５６）。

〔阪神版〕

https://mainichi.jp/articles/20180716/ddl/k28/040/205000c?mode=print

Ⅴ．その他の活動

当法人のメンバーが兵庫県の協議会委員や地元自治会での活動により、防災の普及啓発活動を行いました。

我々の取組が、兵庫ニューメディア推進協議会の総会において、「兵庫県地域情報化功労表彰」として表彰されました。

また、我々の活動が、「第３回貝原俊民美しい兵庫づくり賞」として表彰されました。

実施場所等

NO	開催日	事業内容	開催場所	参加者
1	H31.01.18 H31.03.05	加西市消防団あり方検討委員会	加西市役所会議室	阿山　耕三
2	H30.05.28	兵庫県地域情報化功労表彰	ラッセホール	井上　俊廣 廣田　誠
3	H30.11.20	第３回 貝原俊民美しい兵庫づくり賞表彰	ホテルオークラ神戸	井上　俊廣 窪田　彰 廣田　誠 森脇　康仁

１・加西市消防団あり方検討委員会

１．依　頼　者：　加西市危機管理課

２．開 催 日 時：　第１回検討委員会
平成３１年１月２１日（金）
第２回検討委員会
平成３１年３月　５日（火）

３．開 催 場 所：　加西市役所会議室

４．委　　員：　阿山耕三

５．主 な 議 題

（１）加西市消防団の現状
①消防団の沿革　②消防団員数　③消防団年間行事

（２）消防団強化の施策
「消防団を中核とした地域防災力の充実強化に関する法律」の解説、説明

（３）消防団の課題
①消防団候補者の減少　②消防資機材の整備　③消防団員の処遇改善
④消防団員の負担軽減

（４）課題解決のために
①機能別団員制度の導入　②女性消防団員制度の導入

（５）意見交換

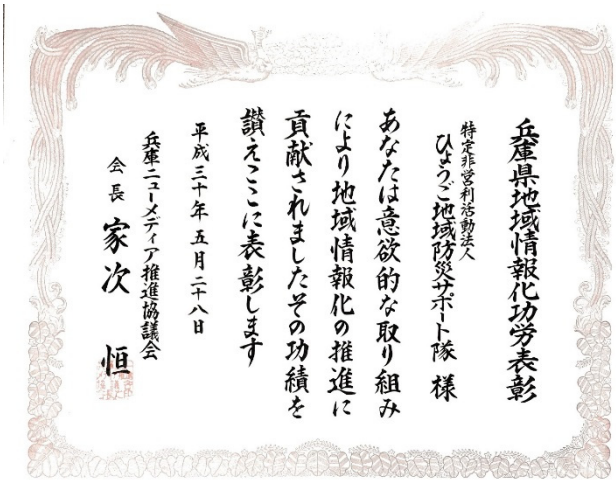
２・兵庫県地域情報化功労表彰

1. 表　彰　者：　兵庫県ニューメディア推進協議会

2. 開 催 日 時：　平成３０年５月２８日（月）

3. 開 催 場 所：　ラッセホール

4. 出　席　者：　井上　俊廣・廣田　誠


兵庫県地域情報化功労表彰

特定非営利活動法人
ひょうご地域防災サポート隊 様

あなたは意欲的な取り組みにより地域情報化の推進に貢献されましたその功績を讃えここに表彰します

平成三十年五月二十八日

兵庫ニューメディア推進協議会
会長　家次　恒

5. 表　彰　理　由

平成 30 年度 兵庫県地域情報化功労表彰について

特定非営利活動法人ひょうご地域防災サポート隊　様

「ひょうご地域防災サポート隊」は、平成 18 年に兵庫県の技術職員 OB で設立された NPO 法人で、“守れいのちを！”を合言葉に県内各地域で防災・減災活動の支援に取り組んでこられました。

主な活動として、県内の自治会や小学校等に出向き、兵庫県の CG ハザードマップを活用した地域ごとの防災マップづくりや DIG 訓練（災害図上訓練）など、その地域に合った防災や減災について、地域の人々とともに考え、サポートする活動を実施されています。このほか、出前講座や尼崎閘門（尼ロック）防災展示室の案内業務等を通じて、防災・減災に関する知識の普及啓発に尽力されています。

地域での防災・減災に関する情報の普及や高度化につながる取組に対して、兵庫ニューメディア推進協議会として、表彰と共に賞賛の拍手をお贈りしたいと思います。

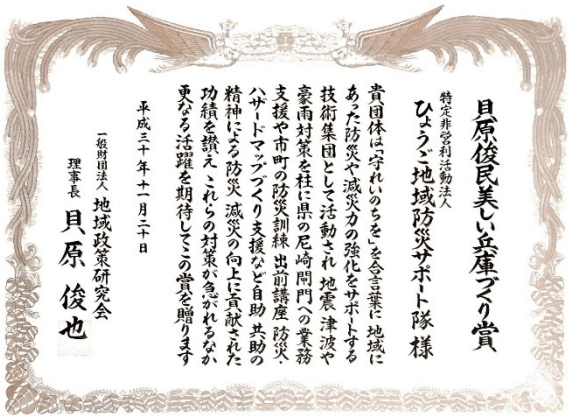
３・第３回貝原俊民美しい兵庫づくり賞表彰

１．表　彰　者：　（一財）地域政策研究会

２．開 催 日 時：　平成３０年１１月２０日(火)

３．開 催 場 所：　ホテルオークラ神戸

４．出　席　者：　井上俊廣・窪田　彰
　　廣田　誠・森脇康仁



貝原俊民美しい兵庫づくり賞

特定非営利活動法人
ひょうご地域防災サポート隊 様

貴団体は「守れいのちを」を合言葉に地域にあった防災や減災力の強化をサポートする技術集団として活動され地震・津波や豪雨対策を柱に県の尼崎閉門への業務支援や市町の防災訓練出前講座防災・ハザードマップづくり支援など自助・共助の精神による防災・減災の向上に貢献された功績を讃え、これらの対策が急がれるなか更なる活躍を期待してこの賞を贈ります

平成三十年十一月二十日

一般財団法人 地域政策研究会
理事長 貝原 俊也

神戸新聞 2018年11月27日 火曜日 面名 朝四社 １３ 30ページ

「地域の魅力発信に挑戦」

貝原俊民賞に「嶋屋」友の会など

「第３回貝原俊民美しい兵庫づくり賞」の受賞者ら＝神戸市中央区波止場町

地域発展に貢献し、さらなる活躍が期待される個人や団体に贈る「第3回貝原俊民美しい兵庫づくり賞」の表彰式が、神戸市中央区のホテルオークラ神戸であった。受賞した各団体の代表が活動内容を報告し、今後の抱負を述べた。

賞は、前兵庫県知事の故・貝原俊民氏が設立した地域政策研究会が創設。今年は団体や個人計36件の応募があり、県内自治体関係者や有識者ら委員が選んだ。

受賞したのは、防災マップ作製などで防災や減災の支援活動に取り組む「ひょうご地域防災サポート隊」（太子町）▽1967年からボランティア活動や団体育成などを続けている「県ボランティア協会」（神戸市）▽市立室津海駅館を拠点に、地域文化の整備や県外交流、情報発信に尽力してきた「『嶋屋』友の会」（たつの市）―の3団体。

地域住民らでつくる『嶋屋』友の会」の柏山泰訓事務局長(70)は「21年も続くとは。今後は室津という小さな町を全国規模で発信できるように挑戦していきたい」と力を込めた。

（篠原拓真）

神戸新聞 2018年10月25日 木曜日 面名 朝二 １３ 3ページ

貝原俊民賞に3団体

「地域防災サポート隊」など

地域の発展に寄与した活動に贈られる「第3回貝原俊民美しい兵庫づくり賞」の受賞団体が決まった。NPO法人ひょうご地域防災サポート隊（兵庫県太子町）、県ボランティア協会（神戸市）、「嶋屋」友の会（たつの市）の3団体で、11月20日に神戸市中央区のホテルオークラ神戸で表彰式を行う。

同賞は前兵庫県知事の故・貝原俊民氏が設立した地域政策研究会（神戸市中央区）が創設。団体・個人の計36件の応募があった。

「ひょうご地域防災」は2006年に設立。県のOBらでつくり、地域住民と防災マップづくりを通じて、災害への備えを促している。

「県ボランティア協会」は1967年、神戸を中心に起きた集中豪雨をきっかけに結成。半世紀以上、草の根活動を継続してきたことが評価された。

「『嶋屋』友の会」は室津海駅館を拠点に、地域の歴史・文化の研究や、まちづくりイベントを多数展開。21年間の活動で地域文化の向上に貢献した。

（前川茂之）

私たちの

地域防災活動への

ご支援ご協力

ありがとうございました

今後ともよろしく

お願いします

特定非営利活動法人

ひょうご地域防災サポート隊

（平成１８年１月５日設立）

私たちは、NPO 法人「ひょうご地域防災サポート隊」を設立し、地域の人々に対して、安全安心のまちづくりの推進のため、その地域に合った防災・減災対策等についての様々なサポート活動を行います。

平成３１年３月

理事長	井上　俊廣
副理事長	髙橋　伸明
理　事	釜谷　正博
同	窪田　　彰
同	阪出　裕昭
同	谷川　俊男
同	中村　　誠
同	林　　健児
同	廣田　　誠
同	森脇　康仁
監　事	榊原　敏夫
同	谷田登志晴
会　員	阿山　耕三
同	梶谷　義昭
同	髙﨑　伸彦
同	常友　永市
同	寺田　良幸
同	中濱　公生
同	西垣　嘉夫
同	溝口　壽孝
同	村上　和幸
同	元井　賢一

ホームページ

https://support-tai.org/

（地域防災サポート隊で検索して下さい。）

連絡先

〒671-1511

兵庫県揖保郡太子町太田 463 番地 1

（廣田方）

Tel/Fax　0792（76）3907

E-mail　info@support-tai.org